

靴の歴史散歩 ①14

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

弾・北岡組の製靴工場が、亀岡町一丁目14番地（現・都立浅草高等学校の内）の自邸内にあったことは知られるが、弾・北岡組の製革所については、橋場真崎の銭座跡（当時の地番で地方橋場1373番地）だったにもかかわらず、語り継ぐ人は少ない。その規模も、総坪数2,600余坪あったというから広大である。新旧の地図を重ね合わせて見ると、現在の石浜神社辺りがその地に当たる。（掲載写真参照）

弾直樹が死を前に、側近の笠原伊左衛門、石垣元七を枕辺に呼び、語ったと伝えられる「今や数百人の伝習生は既に熟達して、全国にあまねく皮革製造所の設けなきはなく、諸靴製造人に乏しからざるを見るは、我が志の果して貫徹させるものなり、と語りてよろこべりと云う」（『部落解放と弾直樹の功業』）、社会事業研究所・高橋梵仙著・昭和11年）とあるが、苦闘の果てに到達した感慨であるだけに、いつ読んでも胸打たれる一文である。

◎明治22年（1889）

（7・－）弾直樹の事業継続で次男、祐之助、二代直樹を襲名引継ぐ。

◎明治26年（1893）

弾・北岡組を継承し、東京製皮合資会社

を設立する。

◎明治33年（1900）

（8・－）北岡文平の引退により、賀田金三郎、東京製皮合資会社の経営を引き継ぐ。

この年、初代弾直樹の生前の功を賞して、賞状と銀杯が下賜される。

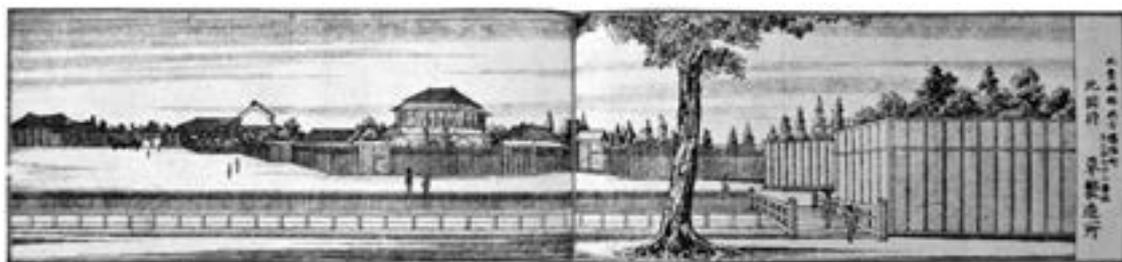
◎明治35年（1902）

（1・21）桜組（西村）、大倉組（大倉喜八郎）、東京製皮（弾）、福島合名の四社が合併して、日本製靴株式会社を設立。

◎明治40年（1907）

（4・1）大倉組、桜組、東京製皮、今宮製革所が合併し、日本皮革（大倉喜八郎）設立。

昭和50年から60年にかけて、汚濁と悪臭で厄介視されていた山谷堀が、埋め立てられ暗渠になるというので、橋の姿でも写真に納めておこうと周囲を歩き回ったことがある。その時出会った、吉野橋の太鼓の南部屋さんのご主人から聞いた話で「弾さんは、商売を畳んでからしばらく、向島の三囲みめぐりに仮住居をしていた」というさりげないひと言が、妙に忘れられず、宿題のようにまとわりついて離れないでいる。明治末から大正期まで、もうしばらく思いを馳せてみたい。



『東京名家繁昌図録』「日本皮革株式会社五十年史」より